

騒音・振動の技術支援

－ 2016年度分－

山本真理* 石橋雅之 堀本泰秀 渡邊剛久 大橋英明

(* : 元千葉県環境研究センター)

1 目的

騒音・振動の規制に関する事務は市町村が行っているが、測定機器の操作に不慣れな事務系職員が担当となることが少なくない。そのため、当センターでは、市町村職員の騒音振動測定技術を向上するために、大気保全課と協力して技術講習会を実施している。

また、市町村等からの問い合わせに応じ、個別の事例に関して、測定方法や機器操作等の技術的助言を随時実施している。

2 騒音・振動測定技術講習会

知識や技術の内容によって、初級と中級の2コースに分けて行っている。講習会で学んだ技術を測定現場で即活用できるよう、両コースとも実際に市町村で所有している機器を使用する。2016年度は、初級を5月31日から3日間、中級を6月7日から2日間の日程で行った。過去5年分の参加者数を表1に示した。

表1 騒音・振動技術講習会の参加者数

年度	参加者数	
	初級(人)	中級(人)
2012	27	9
2013	35	16
2014	30	6
2015	24	9
2016	33	8
合計	149	48

2・1 初級

初級講習会は、初めて騒音振動業務に携わる職員を主な受講者として想定しており、騒音・振動に関する基礎的な講義の他、騒音計・振動レベル計の基本操作に関する実習を行う。

2・2 中級

中級講習会は、初級コースを受講済みで騒音振動業務を1年以上担当している等、ある程度経験を積んだ職員を主な受講者として想定しており、周波数分析や低周波音測定等、より高度な測定技術の習得を図る。

3 個別事例の技術支援

市町村は住民から直接苦情を受け付ける窓口となっており、日々対応が求められる状況にある。実際の苦情現場は机上の学習と異なり、様々な要因により測定上の制約がある等、条件が複雑な事例がある。そのため、当センターでは、前述の定期的な講習会の他に、市町村から依頼があった場合には、個別事例に対する技術支援を行っている。

2016年度中に市町村等へ行った技術支援は17件あり、その概要を表2に示した。相談の内容を騒音・振動・低周波音に分類すると、1件で複数に該当するものを含めて、騒音が12件、振動が3件、低周波音が6件であった。発生源別では、件数の多い順に、空調設備を含む工場・事業所の設備に関するものが6件、次いで射撃場や野球場等特定の活動に関するものが3件、航空機騒音が2件であった。技術支援の内容別では、測定器の使用方法を含めた測定方法に関する助言と、測定結果の評価に関する助言でほとんどを占めており、それぞれ9件と8件であった。

4 まとめ

当センターでは、市町村から受けた様々な相談内容を整理して、技術支援が必要な苦情の傾向を把握するとともに、測定方法の最新の動向を捉え、技術講習会の内容へ反映している。

表2 個別事例に対する技術支援の概要(2016年度)

No.	市町村等	公害の種類			発生源の種類	技術支援の内容
		騒音	振動	低周波音		
1	自然保護課	○			射撃場	騒音測定の実地指導
2	船橋市			○	不明	測定器使用方法の実地指導
3	成田空港周辺 地域共生財団	○			航空機	機器移設の影響に関する助言
4	君津市			○	工場設備	測定器使用方法の実地指導 測定結果に関する助言
5	我孫子市	○			ヒートポンプ	騒音の予測計算に関する助言
6	市原市	○			資材荷降ろし	測定方法及び結果に関する助言
7	流山市			○	キュービクル	測定器使用方法の実地指導 測定結果に関する助言
8	館山市	○			乳幼児施設	測定器使用方法の実地指導 測定結果に関する助言
9	館山市		○	○	太陽光発電設備	測定器使用方法の実地指導 測定結果に関する助言
10	習志野市	○		○	空調設備, ボイラー	測定方法と結果に関する助言
11	教育庁体育課	○			野球場	防音に関する情報提供 類似事例の説明
12	市原市		○	○	冷凍機	測定結果の整理に関する助言
13	八千代市	○			工場設備	測定方法に関する助言
14	我孫子市	○	○		解体工事	苦情対応に関する助言
15	我孫子市	○			給湯器	測定方法に関する助言
16	大気保全課	○			航空機	測定結果に関する助言
17	我孫子市	○			空調設備	騒音の予測計算に関する助言